

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790800122		
法人名	社会福祉法人 啓和会		
事業所名	グループホーム夢の森		
所在地	喜多方市熱塩加納町米岡字下平乙608-5		
自己評価作成日	令和7年3月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do">http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	令和7年5月21日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業の目標である「安心して暮らせる場所づくり」を目指し、日々の変化や状態に合わせたお手伝いをさせて頂いている。生活の中に楽しみを持っていただけるよう食に力を入れ利用者様からのリクエストを基に手作りの菓子作りをおこなっている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域密着型サービスの意義と役割を理解し、地域の小中学生との交流や、職場体験学習を受け入れたり、町の運動会に参加を計画するなど、地域の一員としての役割を果たそうとしている。  
運営推進会議で出されたさまざまな意見や要望に対し、事業所が地域の中で取り組むべき課題を見出し、事業所の持っている力を地域の中で積極的に活かそうとしている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念・事業所理念を掲示し、日頃からの確認と共に職員会議内でも共有に努めている。	毎年度末の2月頃の職員会議の際に職員で意見を出し合い、一年間の業務を振り返りながら理念のあるべき姿を考え、必要があれば見直しも行っている。理念を大切にすることで業務の作業化を防ぎ、利用者第一に考えられるようアイデアを出し合いながら取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として近所づきあいや地元の活動、地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。	町内会への加入や地元の中学生ボランティアの受け入れなどをおこない交流に努めている。	コロナ禍前は近くの幼稚園児の訪問や小学生との交流を行っている。昨年は中学生のボランティアの受け入れを行っている。中学生の職場体験として、介護がどのようなものかを知ってもらう機会にしている。今年度は町民運動会の参加について区長と相談している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じ、地域の方々に認知症への理解をしていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている。	運営状況をはじめ、事故報告やケアについて、具体的にお伝えし、意見やアドバイスを頂き、サービス向上に努めている。	会議では、具体的な報告に対して共感や疑問などをもらい活発な話し合いをしている。事業所だけでなく家庭での介護の悩みもあることを確認し、認知症カフェなどを通して介護や認知症について理解を含められるよう活動して行きたいと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム連絡会や運営推進会議を通じ、担当者との交流や関係性の構築に努めている。	市からは研修の案内やイベントの情報などをメールで受け取っている。事業所の運営や報告について今後も相談にのってもらいたいと考えており、定期的に事業所の報告を行ったり気軽に声をかけることで、相談しやすい関係性を作るようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束防止の会議を行い、職員ひとりひとりが意識して取り組む努力をしている。	身体拘束をしないケアのためには相手の立場になり考えることを大切にしている。言葉の拘束について気づいたときは、その都度を職員同士が互いに注意をするようにしている。職員自身がされて嫌なことを利用者・本人家族の気持ちになり考えることを実践している。	
7	福-1	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内外にて研修を行い、防止に努めている。また、職員のメンタルケアにも気を付け虐待の芽をつくらないようにも努めている。	不適切なケアをしないよう、毎月の虐待防止委員会の中で話し合い、共有化を図っている。日々の業務の中で、気になる言動や対応を見た場合は管理者に報告し、指導をしてもらうようにしている。内部や外部研修に積極的に参加し理解を深められるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、該当となるご利用者はいないが、資料を基に制度についての周知に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前や改定時にしっかりと説明を行い、同意を頂いている。また、不安や疑問など伝えやすい空間づくりを大切に、安心へ繋げられるよう意識している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者へは日々のお手伝いの合間などに困りごとがないか声掛けを行い、ご家族へは面会や電話連絡時など利用者様のご様子もお伝えしながら、ご意見など伺い運営に生かせるよう努めている。	家族から会いに行った時に、一緒に宿へ泊まりに行きたいと要望があり、実現につなげたいと考えている。いただいた意見や要望は、口頭伝達と申し送りを活用し、共有化を図っている。事業所以外の外部の人にも家族は意見や苦情を表せる機会があることを説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や管理についての職員の声に耳を傾け、活かしていくことを心がけ、職員の働く意欲の向上や質の確保を図っている。	毎月の職員会議にて職員の意見や提案を聴き、働きやすい環境づくりに努めている。	利用者のケアの方法や業務についての意見がある。転落事故の対応で、系列のグループホームの方法の提案があり実践している。毎日の申し送りの時間などに、職員間で気づきを共有し話し合い、利用者本人・家族とも相談し、ケアの質の向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者はひとりひとりの職員に寄り添い、時には自らが窓口となり意見を吸い上げ働きやすい職場づくりに努めている。		
13	福-2	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修や年間で計画した研修など、職員に合わせた研修への参加の機会を作っている。	管理者・運営者は職員の質の確保を向上に向けた取り組みが不可欠あることを理解し、職員一人ひとりの能力に合わせ、必要な研修や指導を行ない、質の高いサービスに繋がられるよう取り組んでいる。職員には、技術面だけでなく、利用者へ寄り添う気持ちを丁寧に説明している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会や市主催の研修会への参加を通じ、定期的な交流の中でサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時の情報を基に、本人に寄り添いながら不安な気持ちに耳を傾け、ご本人が安心して生活できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の困りごと・不安なことを伺い、知りたい内容や連絡頻度を、各家族に合わせ寄り添うことに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現時点での必要なサービスを見極め、今後必要と思われるサービス利用も含め 助言等の対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬の念を置き、生活の中で役割を持って頂き、必要なお手伝いをおこなう事で良好な関係作りを力を入れている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月お手紙にて状況の報告を行っている。また、面会時は気兼ねなくお話が出来るよう部屋を設け、電話連絡などでも詳しい状態を把握したい家族もいらっしゃるため、ご家族に合わせ対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	思い出の品を居室に置いて飾って頂いたり、馴染みの方との交流や親睦が途切れないように、面会に来ていただけるよう声掛け案内をしている。	家族や親族との面会方法を工夫し、家族や大切な方との時間を確保するよう務めている。昔の町通りや見続けてきた懐かしい景観を見たいと要望があり、受診の後に少し遠回りをして、見に行くなどなどしている。長年親しんできたラーメンを食べる機会を設けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の性格や特徴を理解し、過ごしやすい環境が作れるよう座席の配置や必要時は職員が間に入り、コミュニケーションが取れるようお手伝いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談があった場合はその都度、対応しており、いつでも連絡を頂いて構わない旨をお伝えしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、関係者で本人の視点に立って意見を出し合い、話し合っていく取組を心がけている。	それぞれの生活歴を把握し、その時々で変化すること本人の希望や必要なサービスの提供に努めている。並行してご家族・職員でも意見を出し合い共有に努めている。	日常の会話や利用者同士の会話の中から、その人の思いを聞くことが多い。個別に話す機会を設けることで、家族に会いたいとの希望を家族に伝え、面会の機会を作るなどしている。日頃からのコミュニケーションを大切に、行動や表情で思いを読み取れるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際、基本情報を作成し、今までの生活歴などの把握を行っている。必要に応じ、関係機関からも情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、バイタル測定を実施し体調を観察している。変化などあれば記録へ残し、職員間で情報の共有おこなっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、定例会時の際、職員間で話し合いを行い、現状の共有と課題について意見交換を行い、介護計画を作成している。ご利用者・ご家族からの要望等を伺い、反映させるようにしている。	残存機能を維持できるよう、本人ができることは見守りし、なるべく本人に行ってもらおうようにしている。定期的にモニタリングを行ない、現状にあった計画を作成するようにしている。計画に沿った支援ができているかを毎日チェックし、その都度見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化等を個別に記録に残し、会議や申し送りなどで情報の共有を行い、必要なサービスの提供・介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々で変化すること利用者やご家族に合わせ、事業所で出来る限りの支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの影響もあり、外出などは制限があったが、ご利用者のもとも持っている能力や意欲などを引き出し、楽しんで暮らしていただけるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族が納得するかかりつけ医への通院をしている。かかりつけ医とは常に、情報共有を意識して連携に努めている。	協力医療機関には細かに相談にのってもらい、受け入れ可能時間外も対応してもらうなどしている。受診は家族対応や職員対応の方がおり、必要なときは家族対応の方の受診時に、職員が同行しその人の状況を分かりやすく伝えるようにしている。受診結果は家族と共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内に看護職の配置はないため、身体の変化や急変時はかかりつけ医や関係医療機関へ連絡や相談を行い、必要時は受診などの対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃より関係機関の担当の方との関係作りを力を入れ、お互いに情報共有しやすい環境を作るよう心がけ、ご利用者やご家族が安心して治療・退院に向け動けるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の際、事業所のできる事についてご利用者・ご家族へ説明、理解していただき定期的に意向の確認を行い関係施設や医療機関と連携しながら情報の共有化に努めている。	重度化や終末期には、家族に会ってもらう機会を多く作り、情報の共有を密に行うようにして行きたいと考えている。現在、終末期のケアに関わった職員は少ないが、今後必要に応じ、研修や面談などを行ない、不安のない取り組みができるようにして行きたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	あらゆる可能性に備え、定期的に訓練を行い 突発的なことに備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	BCPのマニュアルを基に設定を変えながら、様々な訓練を盛り込み 災害等に備え訓練を行っている。また、職員の緊急連絡網を作成し、素早い情報伝達に備えている。	消防署立会いの訓練は定期的に行っている。職員には勤務表の調整などを行ない、年に一度以上訓練に参加できるようにしている。利用者の状態・状況を踏まえ、あわてず確実な避難誘導が出来るようシミュレーションし、訓練を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を大事にし、一人一人の個性や価値観を理解し、その方に合わせた声掛け・対応に努めている。	職員は利用者は人生の先輩として一人ひとりの状況に合わせた対応を行ない、プライバシーを侵害しない支援をするようにしている。職員や事業所の都合でなく、本人の思いや希望を優先しているよう、問いかけや選択できる内容の声かけをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい環境作りや日頃からのコミュニケーションを大切にしながら、何を望まれているかを読み取り、自己決定が出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	様々な場面にて、まずはご利用者の意向を伺い、対応することに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自宅から衣類を持参していただき、慣れ親しんだ物やお好みのお洋服を季節に合わせて着ていただけるようお手伝いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている。	ご利用者との会話の中で食べたいものを伺い、献立を共に考え「食」への楽しみに繋がるよう支援している。	行事食や季節の旬の食材を使い、利用者それぞれの食べるペースで食事を楽しむことができるようにし、利用者に食事の後片付けなどをしてもらえよう声かけしている。一人以上の職員が利用者と同じ食事をして、味付けや食べやすさなどを確認するようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分を記録し、職員間で共有を行い、ご利用者それぞれに合わせた食事の形態・水分の必要摂取量に合わせ支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。ご本人ができるところまで実施していただき、その後必要時は職員がお手伝いを行い清潔保持・誤嚥防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を活用し、排泄パターンの把握を行い誘導の声掛けを行うことでご本人の自尊心を傷つけないよう対応している。また残存機能を大切に、ご本人のできる事は見守りのもとおこなっていただけるよう努めている。	排泄パターンのチェックを行い、職員のごまめな声かけや誘導でリハビリパンツが必要なくなった例がある。失敗したとしても、話題を変えながら不快な気持ちが続かないよう工夫している。おむつの使用量を減らすことで、不快感や経済的な負担の減少につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できる限り、薬に頼らず自然な排便が促せるよう水分量や乳製品の摂取、適度な運動を取り入れ予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ゆっくりと入浴の時間を楽しんでいただけるよう、ご本人のタイミングや体調のチェックをおこない、個々の気持ちに沿った対応に努めている。	これまでの生活習慣を尊重し、お湯の温度、湯船つかる時間など、体調を考慮しながら入浴を楽しめるようにしている。入浴を嫌がる場合は、話題を変えたりしながら入浴を勧めている。入浴できなかったときは清拭し、清潔保持・皮膚の状態観察を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人のペースに合わせた支援に努めている。夜間眠れない時は温かい飲み物を提供したり、安心して眠りにつけるよう お声がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬が確認しやすいようファイルにし、管理している。また、薬の変更時は変化や状態を記録に残し次回受診で報告をおこない ご利用者それぞれの服薬を支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握し、ご本人の能力に合わせ身の回りの事やお手伝いをお願いしている。また、季節事の行事や雰囲気作りの飾りつけを掲示し気分転換に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	短時間でも施設の外に出て、季節を感じて頂いたり、自然と触れ合い気分転換が図れるように努めている。散歩などの際はご近所の方へ挨拶をおこない関係づくりにも努めている。	天気の良い日は近くの花畑に散歩がてら外出するようにしている。花見ドライブをし、季節に合わせた外出を楽しめるようにしている。車いすの方も、乗車が可能な車両でドライブしている。今後は家族の理解や協力を得ながら、利用者の希望に沿った外出支援を計画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理は職員の方で行ってる。必要に応じ、買い物支援などをおこない寄り添った支援に努めている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望があれば携帯電話の持ち込みも可能とし、ご本人の要望時は連絡を取り合えるよう間に入り対応している。</p>		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共同のスペースは全てのご利用者が過ごしやすい場所になるよう椅子の配置などの環境づくりに努めている。また壁絵などの飾りで季節感を感じて頂けるようにも取り組んでいる。</p>	<p>一人ひとりの好みの場所で、その人が過ごしたい場所で過ごしてもらっている。歩行や移動のための障害にならないよう、動線上には物を置かないようにしている。感染症対策に注意し、席の配置などに考慮し外部からの刺激を緩和できるようにしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>慣れ親しんだ ご利用者同士が交流しやすい座席の配置をおこない、居心地の良い空間づくりに努めている。</p>		
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にしながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。</p>	<p>ベッドの配置やタンスの位置など過ごしやすいよう設置し、思い出の品やお好みの飾りなどを置いて頂きながら、その人らしい空間となるよう配慮している。</p>	<p>居室を間違わないよう、入り口に名前を貼り目印にしている。個室の意味は大きく、プライバシーを大切にしながら、利用者が安心して過ごせるように配慮している。行事や誕生日の写真などを掲示し、思い出を振り返ることができるよう居室の飾りを行っている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレやお風呂の案内をわかりやすく扉に貼りだし、廊下への手すりの設置を行い安全で分かりやすい環境づくりに努めている。</p>		